

第47回 県政に関する世論調査の結果について

平成26年5月26日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成25年度第2回目の調査で、県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月から12月にかけて郵送法で実施しました。

具体的内容としては、「住宅用火災警報器の設置状況」、「地域福祉の推進」、「高齢者の孤立化問題」、「障害者施策」、「動物愛護管理」、「環境保全に関する取組」、「消費生活」、「青少年の健全育成」、「有機農業」、「道路整備」、「犯罪のない安全で安心なまちづくり」、「自動車盗難の被害防止」の12項目について調査を実施しました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)

(5) 調査時期 平成25年11月20日～12月9日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,487(49.6%)

3 調査の項目

県政の主要課題

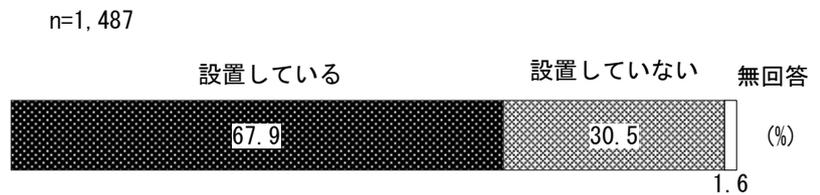
- ①住宅用火災警報器の設置状況について
- ②地域福祉の推進について
- ③高齢者の孤立化問題について
- ④障害者施策について
- ⑤動物愛護管理について
- ⑥環境保全に関する取組について
- ⑦消費生活について
- ⑧青少年の健全育成について
- ⑨有機農業について
- ⑩道路整備について
- ⑪犯罪のない安全で安心なまちづくりについて
- ⑫自動車盗難の被害防止について

4 調査の結果

1 住宅用火災警報器の設置状況について

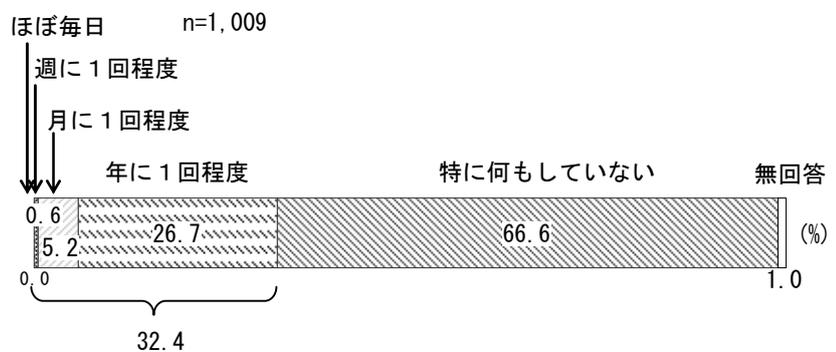
(1) 住宅用火災警報器の設置有無

住宅用火災警報器の設置状況を聞いたところ、「設置している」(67.9%)は約7割。一方、「設置していない」(30.5%)は3割となっている。



(2) 住宅用火災警報器の作動点検の頻度

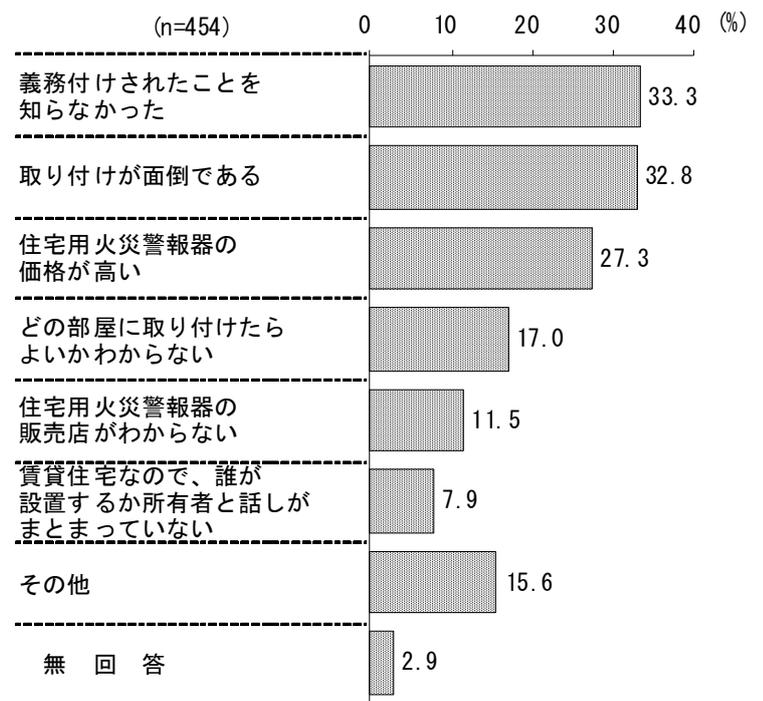
「設置している」と回答した1,009人を対象に、住宅用火災警報器の作動点検の頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」(0.0%)、「週に1回程度」(0.6%)、「月に1回程度」(5.2%)、「年に1回程度」(26.7%)を合わせた『年に1回以上点検している』(32.4%)は、3割を超えている。「特に何もしていない」(66.6%)が6割台半ばとなっている。



(3) 住宅用火災警報器を設置していない理由

(複数回答:いくつでも)

「設置していない」と回答した454人を対象に、設置していない理由を聞いたところ、「義務付けされたことを知らなかった」(33.3%)、「取り付けが面倒である」(32.8%)が3割を超えて最も高く、以下「住宅用火災警報器の価格が高い」(27.3%)、「どの部屋に取り付けたらよいかわからない」(17.0%)、「住宅用火災警報器の販売店がわからない」(11.5%)が続く。



《「住宅用火災警報器の設置状況について」の自由回答（抜粋）》

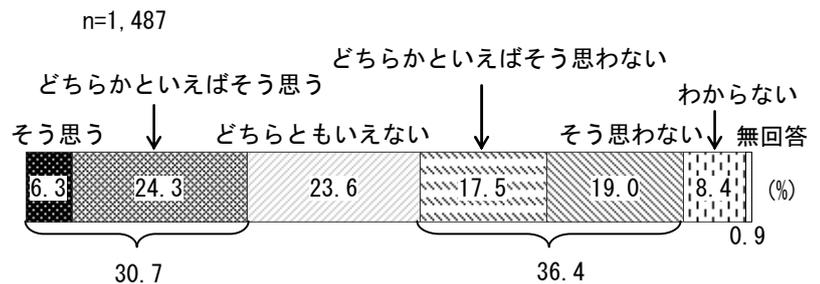
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、205 人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 意見や提案ではありませんが、設置していただいた後、安心感があります。
(女性・65 歳以上・東葛飾地域)
- 数名の友人に聞いたが、義務化については全く認知されておりません。まずは認知度を高める施策が急務であると感じます。販売店や価格、取り付け場所の共有は次の段階で進めていただければと思います。(男性・20 代・印旛地域)
- 法律で設置が義務付けられている割には、消防署の点検等が全くありません。各戸訪問点検をすべきではないのでしょうか。(男性・65 歳以上・印旛地域)
- 住宅用火災報知器の作動点検ですが、まだ点検はしていないがヒモを引いた時に警報器が鳴ってしまい、まわりに迷惑をかけてしまうことはないのでしょうか？(女性・30 代・葛南地域)

2 地域福祉の推進について

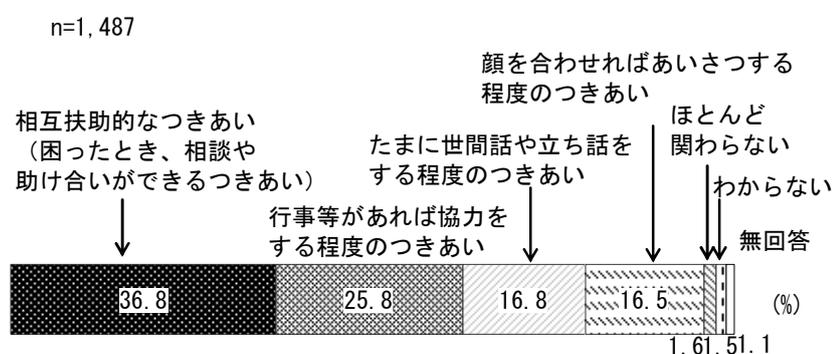
(1) 安心して暮らせる地域社会づくり

安心して暮らせる地域社会づくりについて聞いたところ、「そう思う」(6.3%)と「どちらかといえばそう思う」(24.3%)を合わせた『そう思う』(30.7%)は3割となっている。一方「どちらかといえばそう思わない」(17.5%)と「そう思わない」(19.0%)を合わせた『そう思わない』(36.4%)は3割台半ばとなっている。



(2) 近隣の人に対する望ましいつきあい方

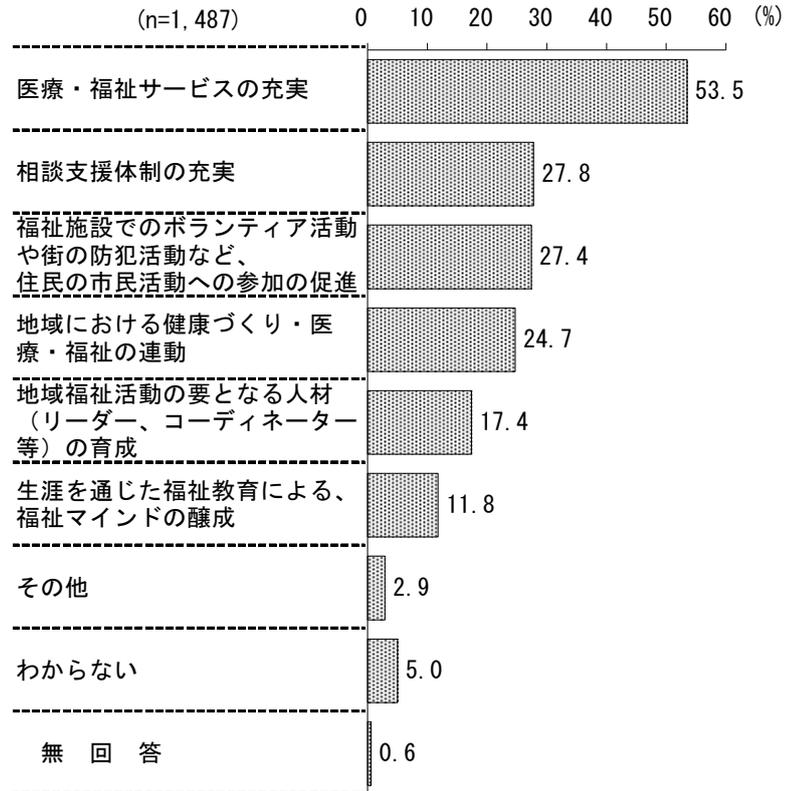
近隣の人に対する望ましいつきあい方を聞いたところ、「相互扶助的なつきあい(困ったとき、相談や助け合いができるつきあい)」(36.8%)が3割台半ばと最も高く、以下「行事等があれば協力をする程度のつきあい」(25.8%)、「たまに世間話や立ち話をする程度のつきあい」(16.8%)、「顔を合わせればあいさつする程度のつきあい」(16.5%)が続く。



(3) 安心して暮らせる地域社会をつくるために必要な取組

(複数回答：2つまで)

安心して暮らせる地域社会を作るために必要な取組を聞いたところ、「医療・福祉サービスの充実」(53.5%)が5割台半ばと最も高く、以下「相談支援体制の充実」(27.8%)、「福祉施設でのボランティア活動や町の防犯活動など、住民の市民活動への参加の促進」(27.4%)が共に約3割と続く。



《「地域福祉の推進について」の自由回答(抜粋)》

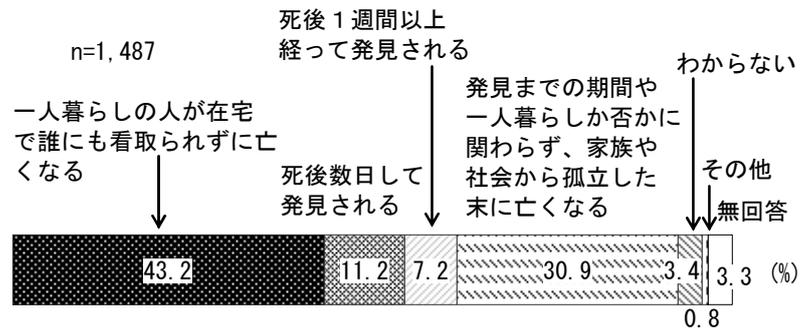
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、162人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 主人が車イスの生活になり、地域の方々のささえが大変助かってます。常日頃よりの近所づきあい
が大切ですネ。地域福祉の充実、ケアマネージャー等の連携が必要だとつくづく思います。
(女性・65歳以上・葛南地域)
- 町会や近隣の方々とも、生活時間が合わないのか、会うことが減ってきている。町会でも、役員が
高齢者が多く、行事の中止が多くなってきている。どうにかした方がいいと思うが、忙しく、手伝
う事も難しい。中高年の意識を変えていく事が大切かもと思う。(女性・50代・葛南地域)
- 高齢の方だけの家族も多く、福祉サービスなど、どのようなものがあるのか知らないのではない
か。また、福祉サービスなどを受けるのに抵抗を感じている(みっともない、近所の方にどう思われ
るかなどを気にする)人もあるように思います。(女性・60～64歳・海匝地域)
- 諸々の活動への参加等の義務化は賛成できません。負担になるようなことは避けるべきです。あく
まで自主的に参加する領域であるべきです。地域は住民の意思が大切です。必要最小限の環境作り
が行政の仕事です。(男性・60～64歳・印旛地域)
- 高齢者や支援の必要な人をどのようにサポートしていくか。把握するにはどうすれば良いか。地域
自治会との連携。その後の見守り訪問体制づくりを県が主体となって進めていく事業計画を作っ
てほしい。(女性・40代・葛南地域)

3 高齢者の孤立化問題について

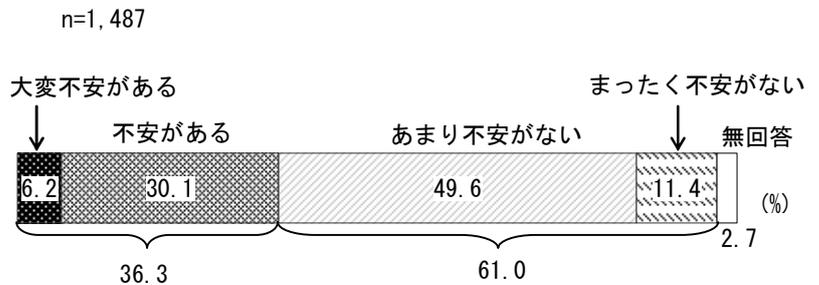
(1) 孤立死（孤独死）のイメージ

孤立死（孤独死）のイメージを聞いたところ、「一人暮らしの人が在宅で誰にも看取られずに亡くなる」（43.2%）が最も多く、4割台半ばとなっている。以下、「発見までの期間や一人暮らしか否かに関わらず、家族や社会から孤立した末に亡くなる」（30.9%）、「死後数日して発見される」（11.2%）、「死後1週間以上経って発見される」（7.2%）と続いている。



(2) 孤立死（孤独死）に対する不安

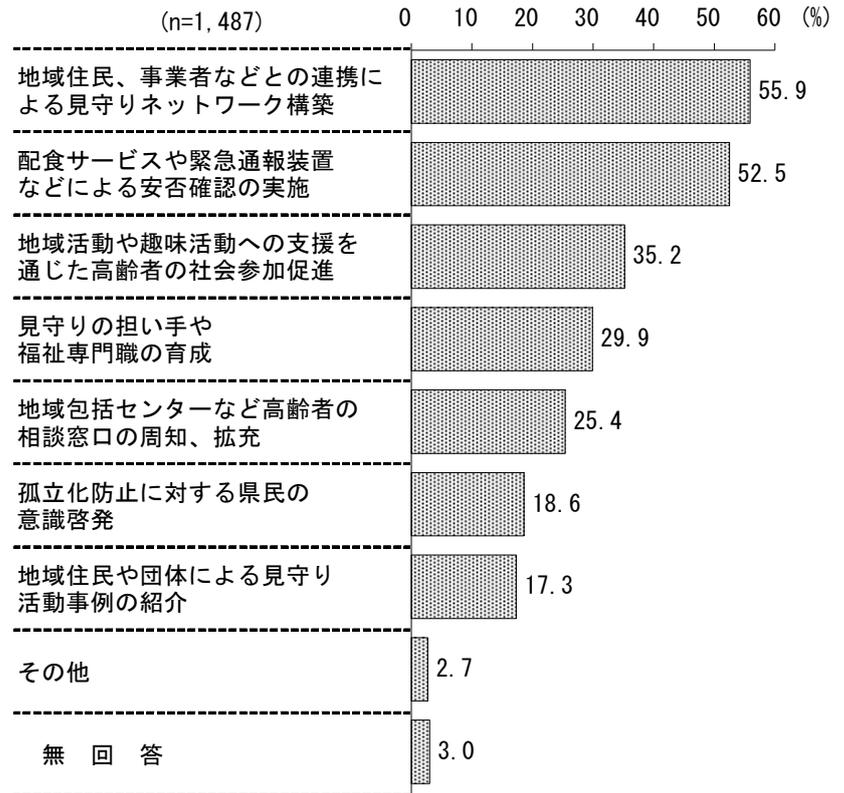
孤立死（孤独死）に対する不安について聞いたところ、「大変不安がある」（6.2%）、「不安がある」（30.1%）を合わせた『不安がある』（36.3%）は、3割台半ばとなっている。一方「あまり不安がない」（49.6%）、「まったく不安がない」（11.4%）を合わせた『不安がない』（61.0%）は6割を超えている。



(3) 高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきこと

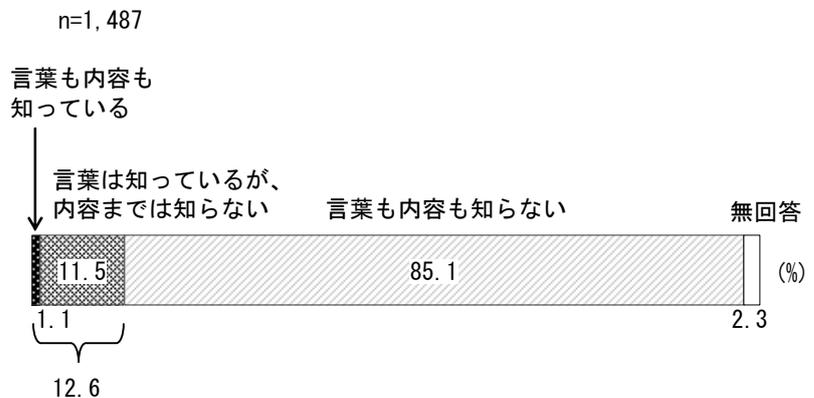
(複数回答：いくつでも)

高齢者を孤立化させないため、行政が取り組むべきことを聞いたところ、「地域住民、事業者などとの連携による見守りネットワーク構築」(55.9%)が最も高く5割台半ば、次いで「配食サービスや緊急通報装置などによる安否確認の実施」(52.5%)、「地域活動や趣味活動への支援を通じた高齢者の社会参加促進」(35.2%)が続いている。



(4) 高齢者孤立化防止活動「ちばSSKプロジェクト」認知度

高齢者孤立化防止活動「ちばSSKプロジェクト」の認知度を聞いたところ、「言葉も内容も知っている」(1.1%)、「言葉は知っているが内容までは知らない」(11.5%)を合わせた『知っている』(12.6%)は、1割を超えている。一方「言葉も内容も知らない」(85.1%)は、8割台半ばとなっている。



《「高齢者の孤立化問題について」の自由回答（抜粋）》

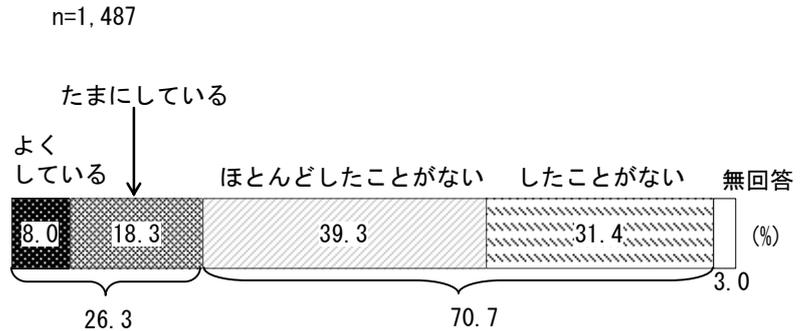
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、211人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 高齢者自身が自分で孤立しないよう、またあまり世間の皆様に迷惑をかけないようにどうすればいいのか？ 元気なうちに考えておくことが大事だと思います。(女性・60～64歳・葛南地域)
- 高齢者孤立化防止に対しての取り組みの周知がされていないことが課題では？ 誰もがもっと気軽に参加できるようなボランティアの企画(街コンやゴミ拾いのように)を幅広く周知できるような仕組みがあればと思います(大学や図書館、商業施設等も利用して)。(女性・20代・千葉地域)

4 障害者施策について

(1) 障害のある人に対する支援

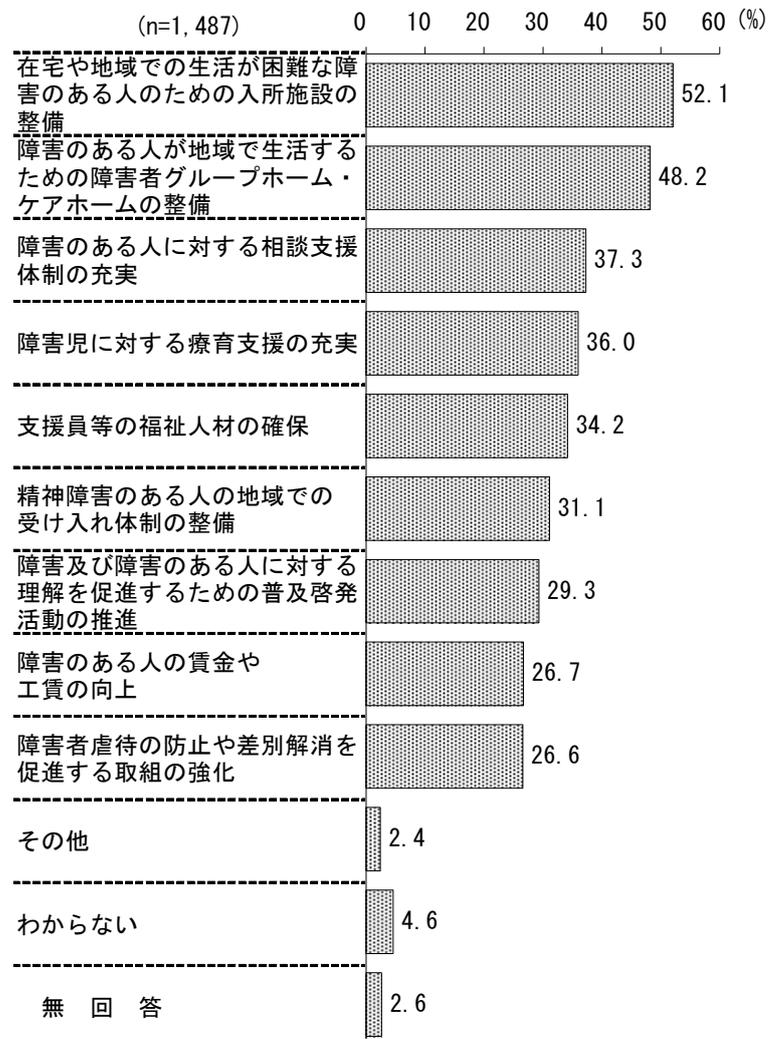
障害のある人に対する支援について聞いたところ、「よくしている」(8.0%)、「たまにしている」(18.3%)を合わせた『している』(26.3%)は、2割台半ばとなっている。一方「ほとんどしたことがない」(39.3%)、「したことがない」(31.4%)を合わせた『したことがない』(70.7%)は7割となっている。



(2) 今後、障害のある人に対する支援として必要な取組

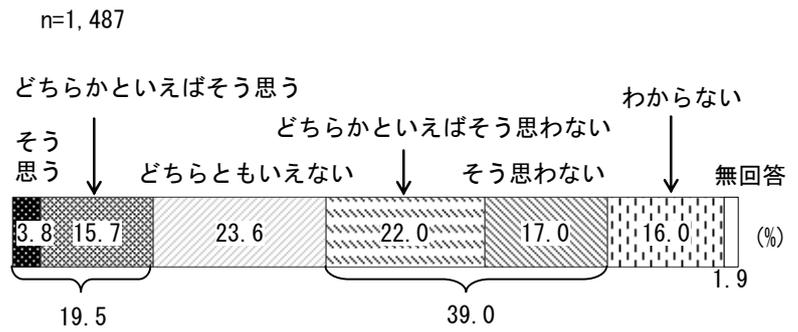
(複数回答：いくつでも)

今後、障害のある人に対する支援として必要な取組を聞いたところ、「在宅や地域での生活が困難な障害のある人のための入所施設の整備」(52.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「障害のある人が地域で生活するための障害者グループホーム・ケアホームの整備」(48.2%)が約5割、「障害のある人に対する相談支援体制の充実」(37.3%)が約4割と続いている。



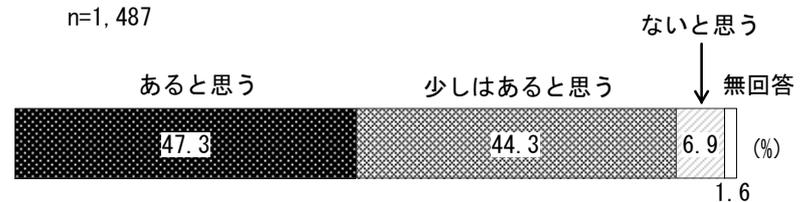
(3) 障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくり

障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりについて聞いたところ、「そう思う」(3.8%)、「どちらかといえばそう思う」(15.7%)を合わせた『そう思う』(19.5%)は、約2割となっている。一方「どちらかといえばそう思わない」(22.0%)、「そう思わない」(17.0%)を合わせた『そう思わない』(39.0%)は約4割となっている。



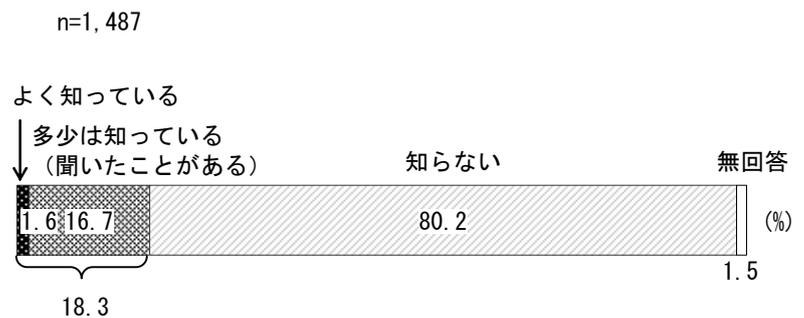
(4) 障害を理由とする差別や偏見の有無

障害を理由とする差別や偏見の有無を聞いたところ、「あると思う」(47.3%)が約5割、「少しはあると思う」(44.3%)は4割台半ばとなっている。



(5) 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知度

障害のある人の差別に関する全国初の条例である「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が千葉県にあることを知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.6%)、「多少は知っている(聞いたことがある)」(16.7%)を合わせた『知っている』(18.3%)は、約2割となっている。一方、「知らない」(80.2%)は8割となっている。



《「障害者施策について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、165人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○障害者への手助けができればと思いますが、何から始めて良いのか分かりません。

(女性・65歳以上・東葛飾地域)

○人材の確保等、問題点はたくさんあるが学校を卒業後に入所できる施設がもう少し増えることを期待します。障害のある人も自立心を育てるという面では、親元を離れて生活を送るということも重要だと思う。(女性・20代・東葛飾地域)

○知的障害者団体のボランティアをしていますが、生産性・効率が求められる仕事にはついていけないが、ほとんど職場がない。自立は難しいです。支援金は出ても、社会と関わりをもって生きたいという願いは強い。公営の知的障害者のレストラン、カフェを作って、働く場を作って欲しいです。

(女性・65歳以上・葛南地域)

○障害者の自立を目指す取り組みの強化（職業訓練等の施設を増やすなど）。障害者を持つ家族の不安などを和らげる事も大切だと思う。(女性・30代・長生地域)

5 動物愛護管理について

(1) ペット飼い主の責務として終生飼養に努める規定の認知度

「動物の愛護及び管理に関する法律」にペット動物の飼い主の責務として、できる限り終生飼養に努めることと規定されていることを知っているかどうか聞いたところ、「よく知っている」(18.5%)は約2割、「多少は知っている(聞いたことがある)」(37.7%)が約4割で、「よく知っている」と「多少は知っている(聞いたことがある)」を合わせた『知っている』(56.2%)は、5割台半ばとなっている。

